

## 学校関係者評価委員会

実施日：令和2年2月7日（金）午後7時30分～午後9時30分

会場：双葉東小学校 会議室

参加者：（学校関係者評価委員）

・学校評議員 大澤 孝彦・水口 征夫・古屋 秀雄・石川 和子・奥山 勝也  
渡井 真理（欠席）

・PTA代表 芹澤 直人・中村 貴子

（学校側）

・校長 内藤 和彦 ・教頭 立澤 正二 ・主幹教諭 堀内 貴司

### I 学校側から提案された内容

- ・「学校関係者評価」の意味，位置づけなどについて
- ・学校経営方針について
- ・「自己評価（教職員）」の結果及び改善策について
- ・「児童アンケート」の結果及び改善策について
- ・「保護者アンケート」の結果及び改善策について
- ・その他

### II 協議された主な内容

- ・「自己評価（教職員）」の結果からの課題
- ・「児童アンケート」の結果からの課題
- ・「保護者アンケート」の結果からの課題
- ・その他

## <学校関係者評価書>

### I 全体評価

双葉東小学校の教職員によるアンケートと児童用アンケート結果及び保護者用アンケート結果は，総じて良好な水準にあると言える。教職員アンケートはほとんどの項目で肯定的評価（Aとてもそう思う Bそう思う）であった。また，児童アンケートでも多くの設問において，肯定的評価（A・B）であり，保護者アンケート結果においても，学校に対する事柄の項目は，1項目以外は肯定的な意見（A・B）が80%を超えていた。学校に対する信頼の表れであると考えられる。

### II 特徴

教師のアンケート結果は，概ね高い水準にあるといえる。ほとんどの項目において，肯定的評価が90%を超え，「学校教育目標」「学校経営目標」「学校経営方針」に沿った教育活動が展開されているのではないかと考えられる。しかし，危機管理体制の整備，地域の人材・施設を活用した教育活動の推進，保護者や地域との連携については，さらなる改善が必要な項目であるということが確認できた。

保護者アンケートでは，学校に関わるほとんどの項目で肯定的な評価が80%を超えていることから，学校と保護者との間で良好な関係が築けていることがうかがえる。しかしながら，児童の下校後の生活について，特に自主的な学習の進め方や取組の状況，読書習慣の定着といった点については課題があると考えている保護者が多いと言えるのではないかと。

児童のアンケートも肯定的評価が90%を超える設問が多く，また，「先生がよく勉強を教えてくださいか。」という設問においては，肯定的評価が98.3%と最も高い評価であった。全国学力・学習状況調査の結果からも，算数・国語ともに，多くの問題において全国の平均正答率を上回っており，学校本来の役割である「学力の定着」に向け，職員一人一人が地道に努力を重ねてきた成果が表れているのではないかと考えられる。一方，「授業中に質問や意見を言っていますか。」の設問では，肯定的評価が67.9%と低い数値となった。全国学力・学習状況調査の結果からも「学んだ知識を活用する力」「自分の考えを表現し，伝える力」に課題があることが浮かびあがった。学力のさらなる向上に向け，児童の基礎・基本の確実な定着を図るとともに，授業改善により課題克服を図っていくことを確認した。

### Ⅲ 今後の課題として意識されたいこと

#### ○危機管理マニュアルの周知について

- ・「危機管理マニュアル」の周知について課題が出されたが、危機管理マニュアルを作成する上で参考となる県・市などから出されている資料はあるのか。
- ・国・県・市などから出されている資料を参考にしながら、地域の実態や学校の立地条件等も考え、より実内容的な内容となるよう毎年改訂を進めている。
- ・製造業に従事しているが、会社でも危機管理マニュアルを作成して有事の際に備えている。本来は100%でなければならないが、内容も多くなっているので周知するのは難しい。
- ・危機管理マニュアルの作成とそれに基づいた行動も大切だが、予期しない事態への対応も非常に重要である。日頃の訓練をしっかりとしてほしい。

#### ○児童の安心・安全について

- ・交通事故や火災への対策、不審者への対応等について子どもたちへの指導をさらに進めてほしい。

#### ○児童のあいさつについて

- ・双葉東小学校の子どもたちはよくあいさつをしてくれるが、「自分から進んであいさつする」という部分では、まだまだ取組を続けていく必要がある。
- ・登下校時など、大勢でいる場合は大きな声であいさつをしてくれるが、一人か二人の時には、あいさつが少なくなる傾向にある。
- ・朝の登校時には、高学年が元気なあいさつをしてくれる班は、低学年の子どもたちも大きな声であいさつを返してくれる。高学年のよいモデルがいることが、あいさつにしてもよい影響を与えていく。高学年の児童の在り方はとても大切である。高学年が進んであいさつが出来るように指導をしてほしい。また、「親を見て、子は育つ」と言われるが、われわれ大人も地域・家庭で元気なあいさつが出来るように気をつけていきたい。

#### ○家庭での読書週間・スマートフォン等の活用について

- ・保護者アンケートから、家庭での読書量は一日当たり「10分より少ない」の数値がいちばん高くなっている。読書の時間が少なくなっているのは、ゲームやスマホの影響が大きいのか？
- ・スマホについては、中学生はほぼ持っている状況にあるようだ。私の家庭では、子どもが高校生になるのをきっかけに持たせるようにした。部活の連絡・友達との会話などでスマホ（SNS）を活用しなければならない状況になっている。スマホを持たせないのではなく、どんな風に活用していくか、上手な活用方法について考えていく必要があるのではないか。

#### ○登下校時の児童の持ち物について

- ・持ち物が多く、低学年や雨の日などは大変だと感じる。学校でも工夫をして負担の軽減に努めてほしい。
- ・学年だよりなどで持ち物が分かるので天気予報などを参考に持っていく日を調整することもある。高学年が低学年を手伝う姿もあり感心する。

#### ○児童館との連携について

- ・児童館と定期的な情報交換を行い子どもを多角的・多面的に理解し指導に生かすようにお願いしたい。

記載責任者 双葉東小学校 学校関係者評価委員 氏名：芹澤 直人 印